

最新のAdobe® Reader 7.0で実現！ 情報共有とセキュリティを両立 する次世代リッチクライアント

▶ 東京コンファレンスセンター品川
2005年1月18日

アドビシステムズ株式会社
マーケティング本部
エンタープライズ・マーケティング部
小島 英揮

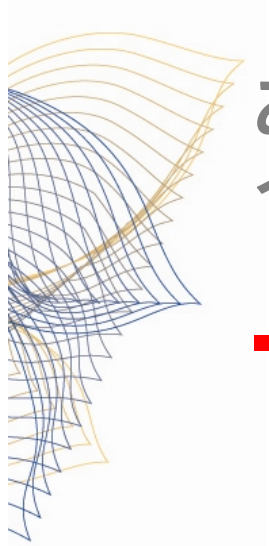




Rich Clientへの期待

- Webシステムのメリットを継承
 - ⇒システムをファイアウォールの外に拡張
 - ⇒不特定多数が利用可能なエンドユーザ環境
- Webシステムのデメリットを克服
 - ⇒オフラインでの運用
 - ⇒「エンド・ツー・エンド」での柔軟なプロセス構築
 - ⇒高品位な印刷への対応
- セキュリティを確保した情報流通の実現
 - ⇒情報の改ざん防止、長期保存への対応
 - ⇒情報漏えい対策：動的なアクセスコントロール

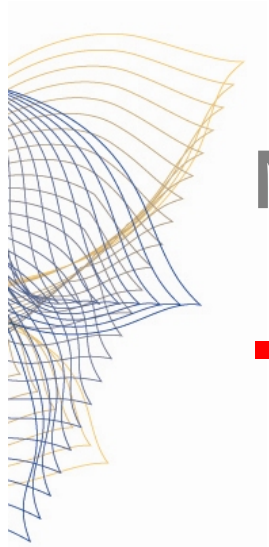
エンドユーザ環境はAdobe Readerだけという
シンプルなプラットフォームで実現



あなたのAdobe ReaderとPDFに対するイメージは？

- PDFのイメージ
 - 印刷用フォーマット
 - GIF、TIFFと何処が違う？
 - レイアウト変更不可＝固定されたドキュメントフォーマット
- Adobe Readerのイメージ
 - PDFの表示・印刷機能
 - 無償でダウンロード可能

これは、Adobe Reader、PDFの
一部の機能にしか過ぎません

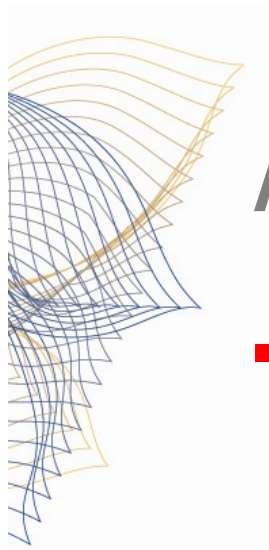


Now Available !

- 2005年1月11日 Adobe Reader 7.0日本語版
無償ダウンロード開始！



<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>



Adobe Reader 7.0

- より Rich Client としての機能を強化

電子フォーム機能の拡張

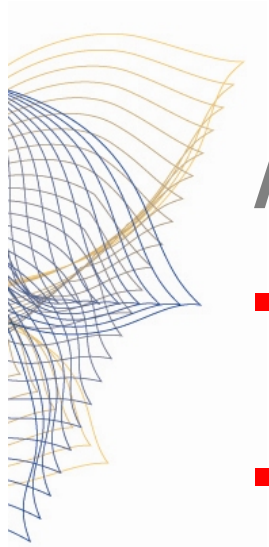
セキュリティ機能の強化

UIの改善

起動スピードの向上

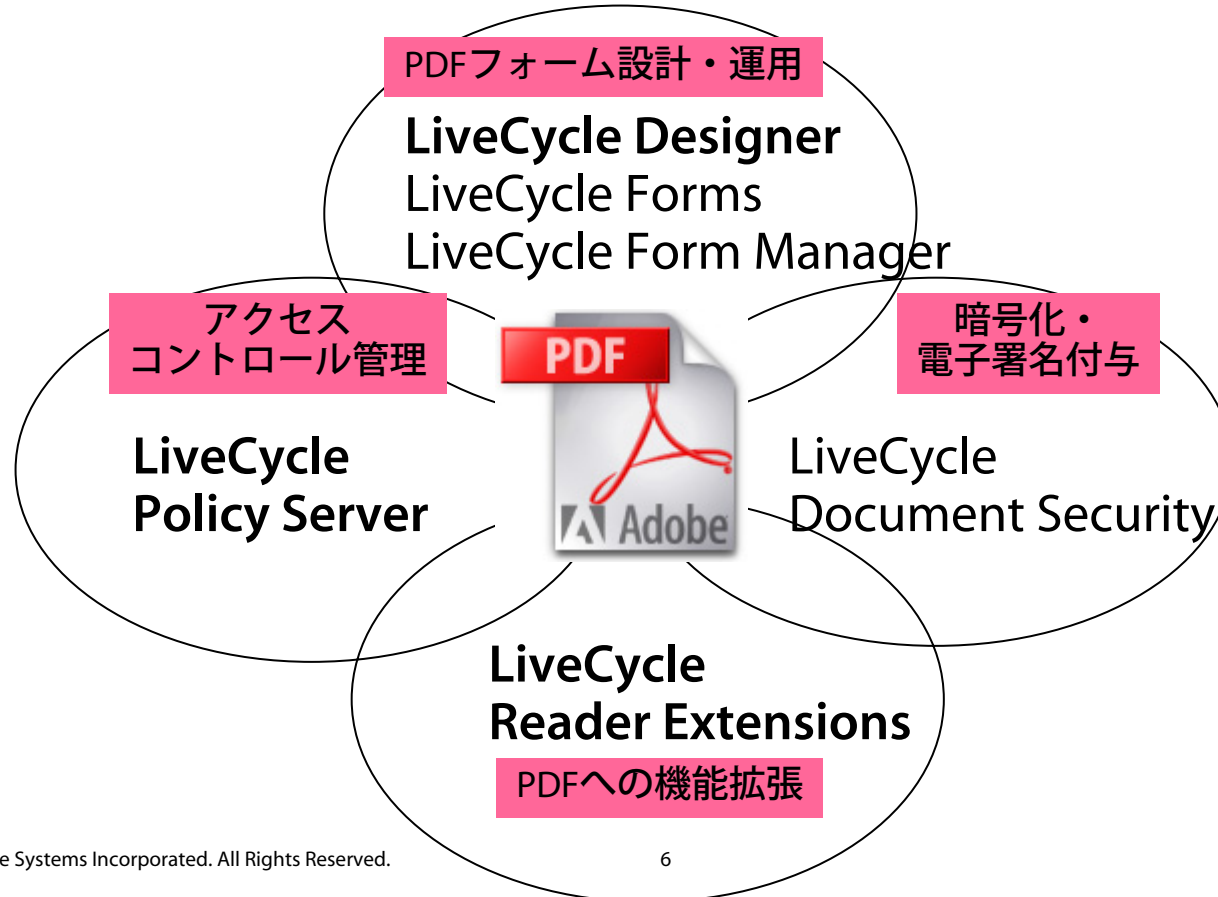
Adobe LiveCycle
製品群との連携

Rich Clientとしての
操作性の向上



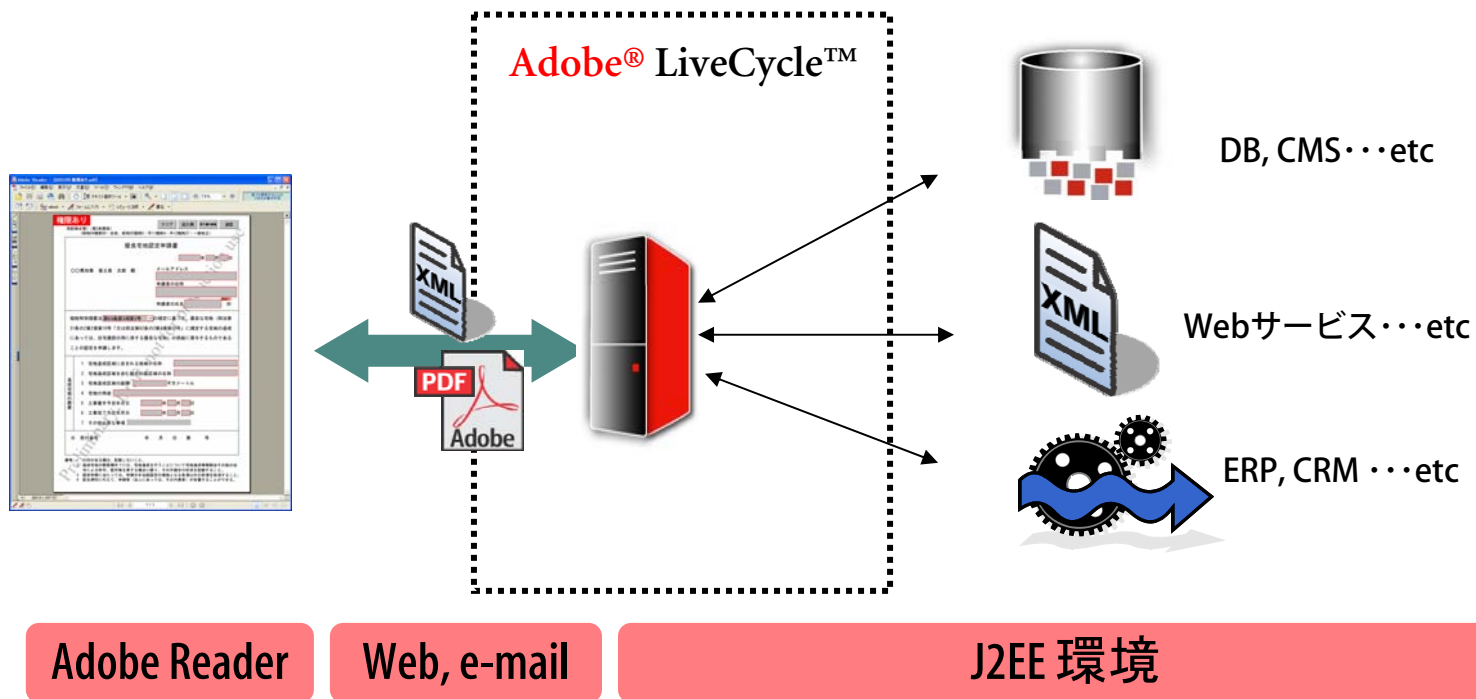
Adobe LiveCycle

- Adobe ReaderをRich Clientとして活用するためのPDFの設計・機能拡張・管理を行う製品群
- サーバ製品は、すべてJ2EE対応



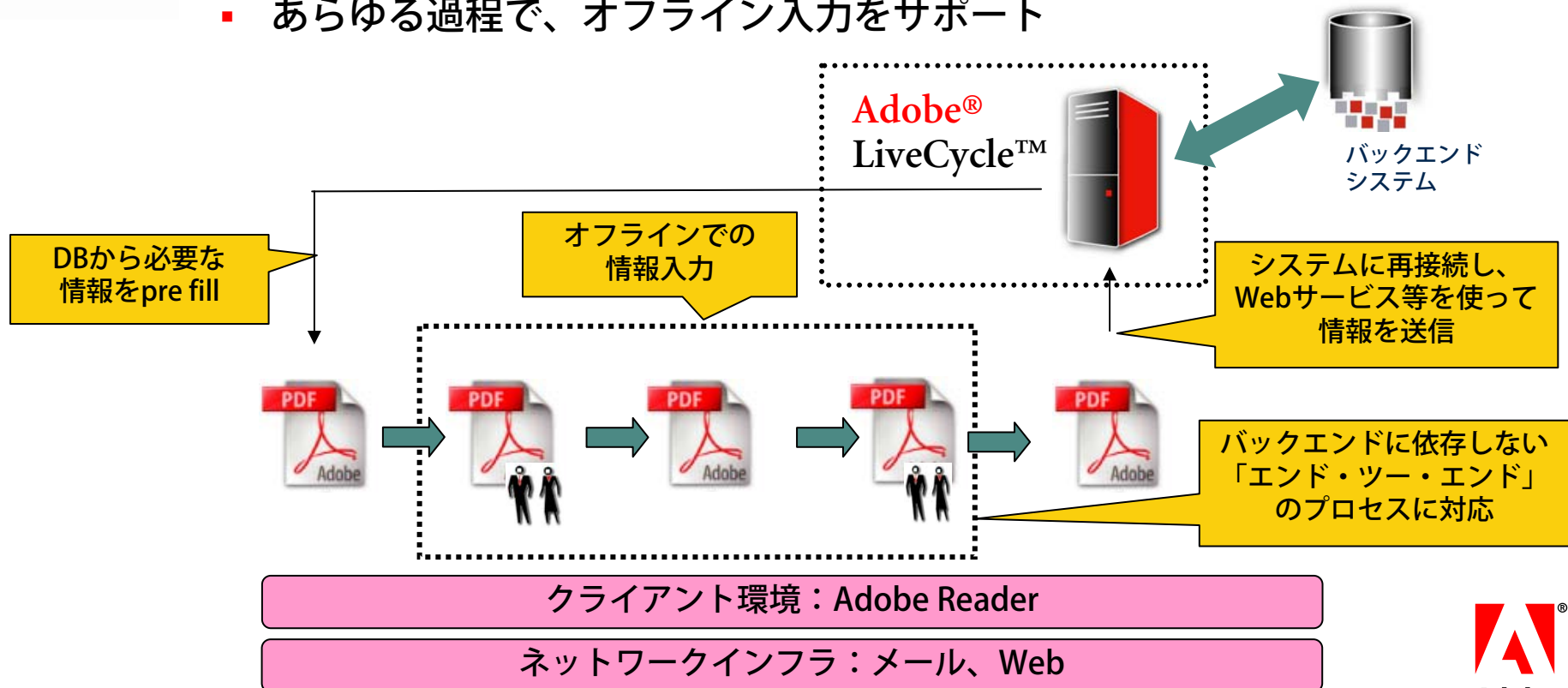
LiveCycleの効果： フロントエンドとバックエンドシステムとの統合

- LiveCycleがPDFをUIや情報のコンテナとして、バックエンドと連携したデータキャプチャ、プレゼンテーションの構築を実現
- J2EE利用によるコネクティビティ、スケーラビリティ



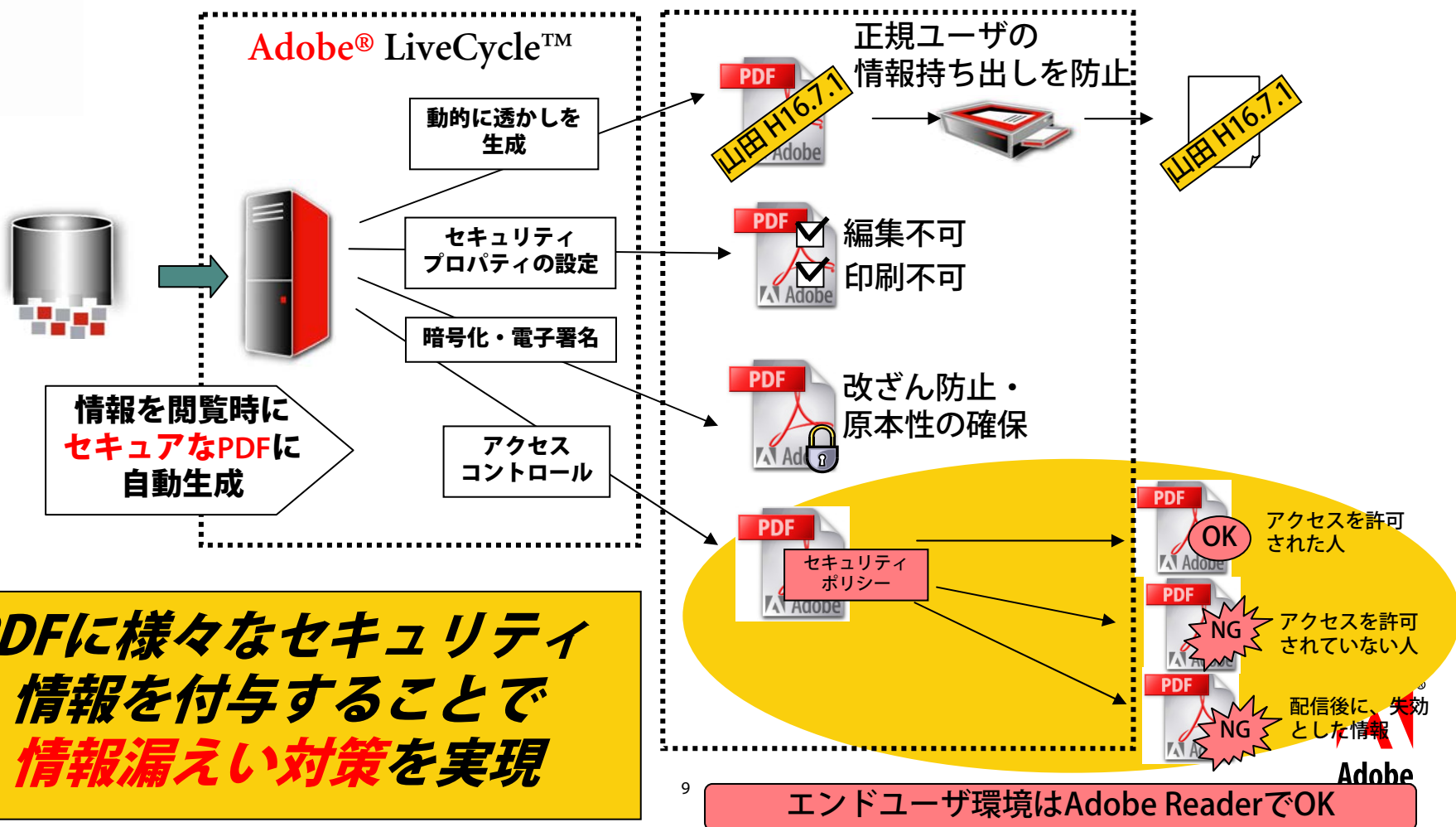
LiveCycleの効果： オフライン+非定型プロセスへの対応

- オフラインを業務システムのフロントに活かすと・・・
 - ユーザビリティの高いPDFでの終始一貫した入力環境
 - 通常のWebアプリケーションのような常時接続は必要なし
 - フォームのロジック設計により、記入漏れ、記入ミスを削減
 - あらゆる過程で、オフライン入力をサポート



LiveCycleの効果： PDFへのセキュリティ付与

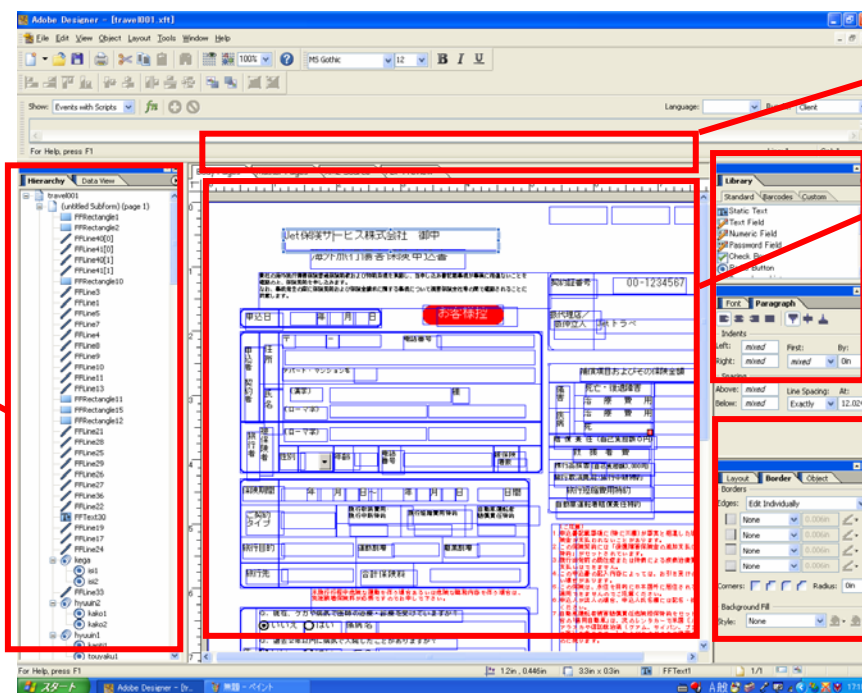
- エンドユーザ環境は、Adobe Readerだけで良く、社内外にまたがるセキュリティインフラを実現
- セキュリティポリシーにより、情報配信後でも閲覧可否をコントロール



**PDFに様々なセキュリティ
情報を付与することで
情報漏えい対策を実現**

先進のUI/電子フォーム開発環境 Adobe® LiveCycle Designer

- GUIベースのPDFフォーム開発環境
 - レイアウト、入力ロジック、データ構造を一度に開発
 - XMLスキーマ、Webサービス、DB等のデータ構造をインポート可能
 - PDF、MS InfoPath等の、既存フォーム資産のインポートが可能



データ構造の
インポート

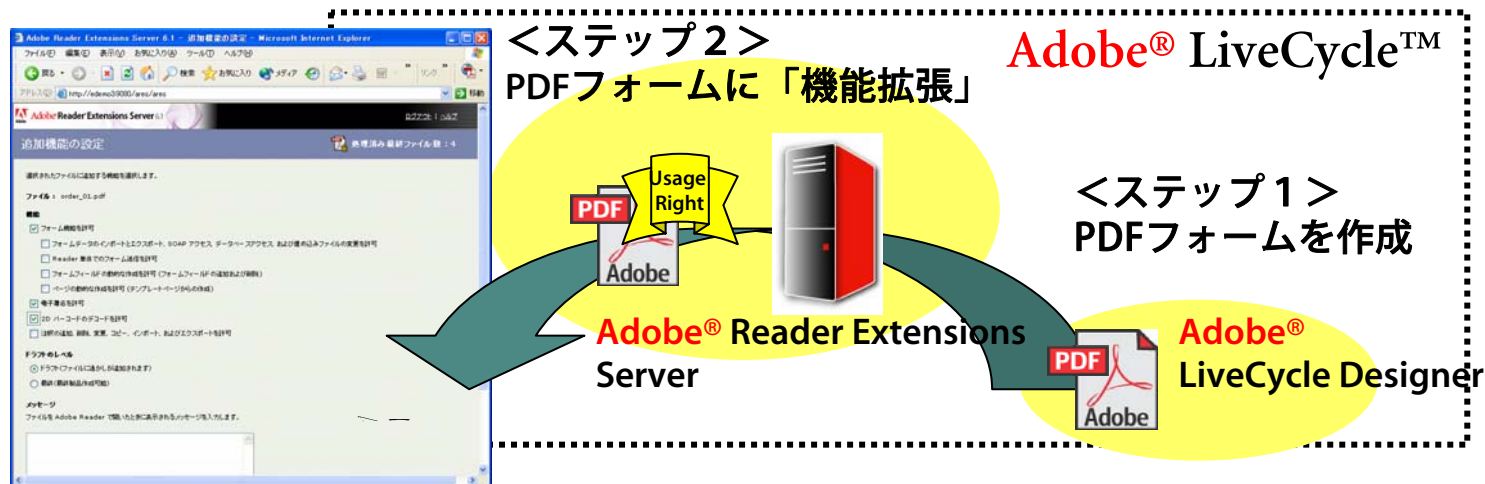
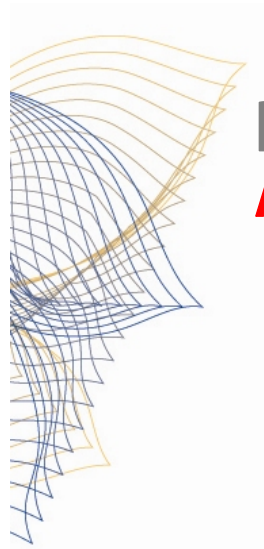
スクリプトで
ロジック設計

GUIでレイアウト作成・
PDF等のレイアウト
インポート

機能実装を容易
にする部品群

フォント等の設定

PDFフォームへの機能拡張を実現 Adobe® LiveCycle Reader Extensions



Reader Extensions
機能拡張設定画面

2次元バーコードの処理を許可
※日本での提供時期は、別途ご確認ください

電子署名に対応

各種ファイルの「添付」が可能

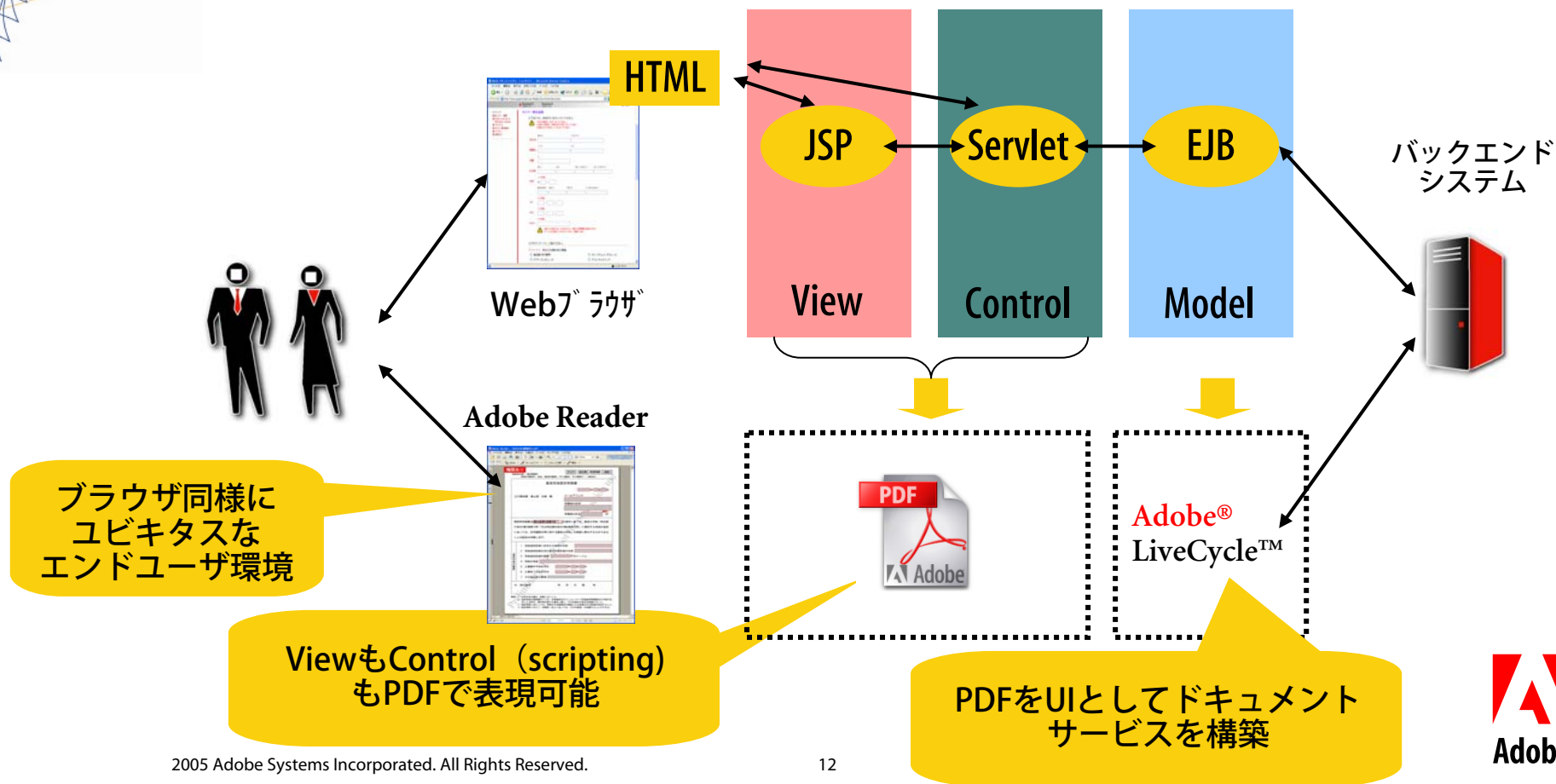
オフラインでの運用を実現

＜ステップ3＞
無償配布のAdobe® Readerで各種フォーム機能の利用が可能に



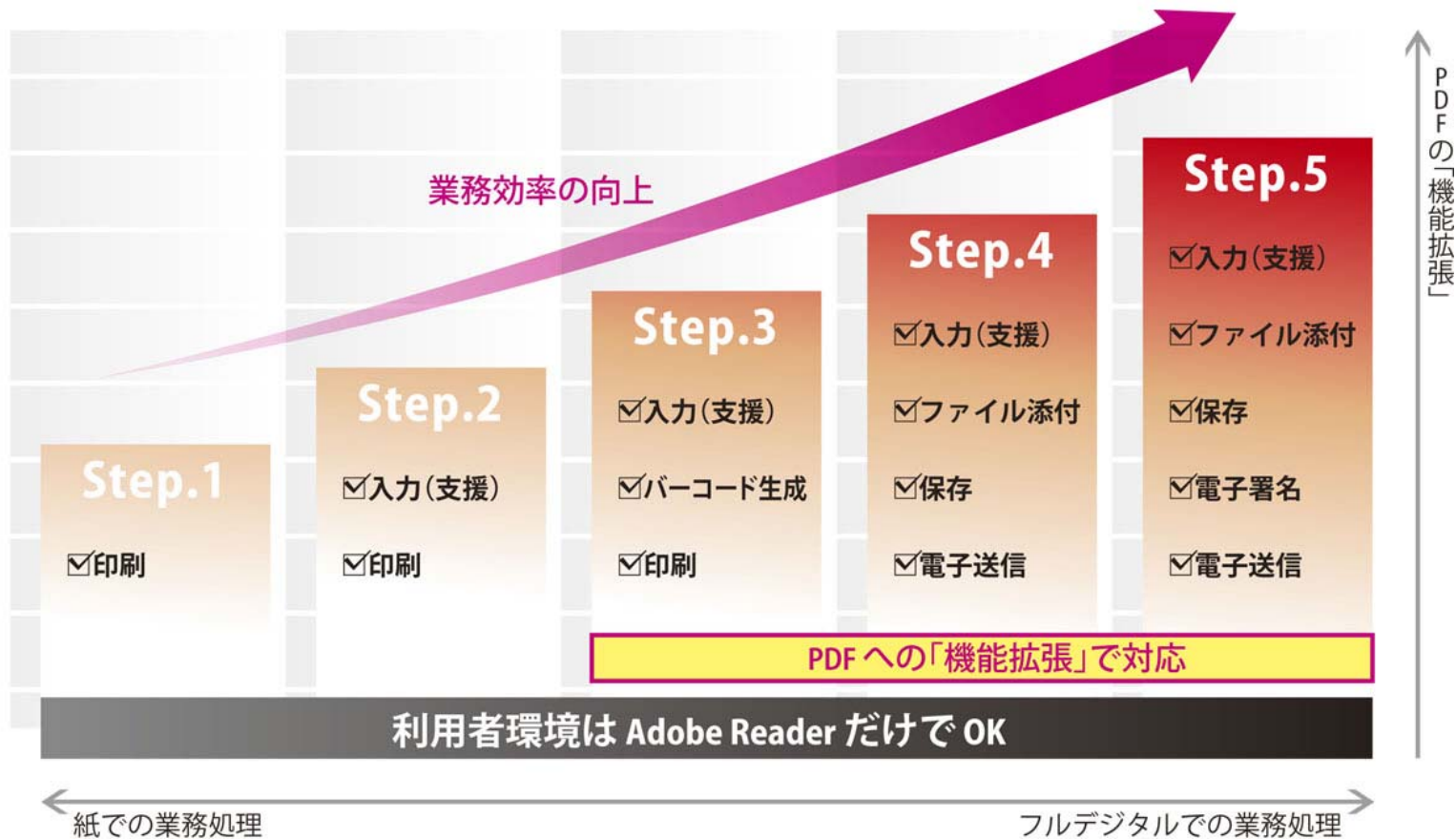
PDFソリューションを MVCモデルに置き換えて考えると・・・

- 従来JSPやServletで開発してた、システムのUI部分の多くをPDFでのインテリジェントフォームの開発により実現可能
- PDFを利用することにより、従来のHTMLの限界を打破



PDFフォーム利用ステップ

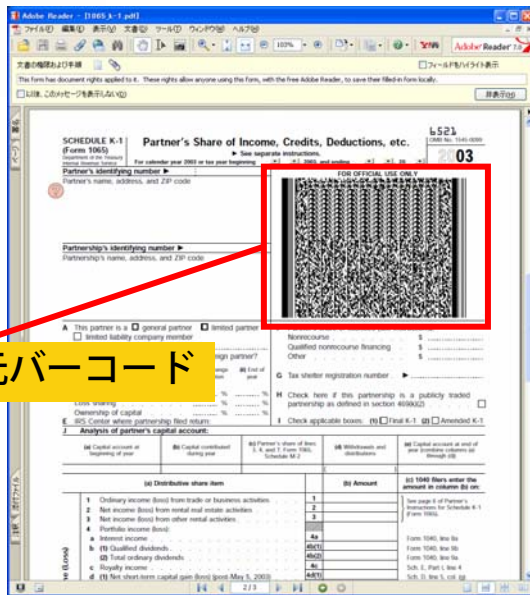
- 業務にあわせてPDFフォームに「機能拡張」
- 利用者環境は、Adobe ReaderのみでOK



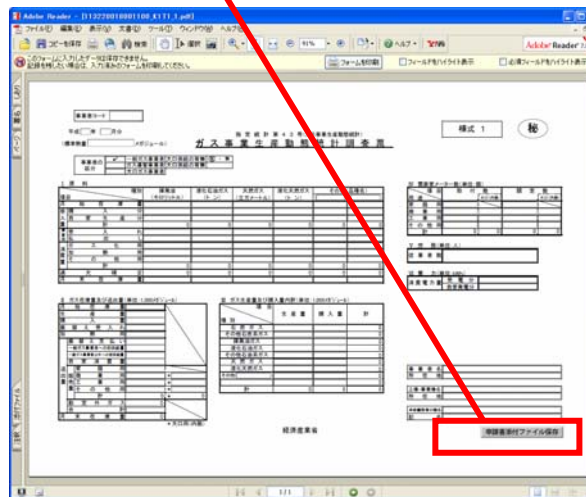
LiveCycleによるフォーム機能拡張例

■ プロセス自動化のための機能拡張

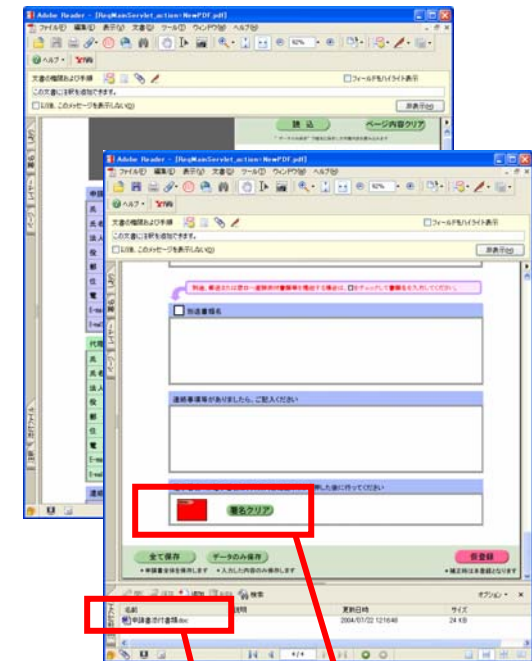
<IRS：税申告フォーム>



記入内容の保存・送信



<埼玉県庁様：汎用電子申請>



<資源エネルギー庁様：統計調査票>

- 2次元バーコードの活用
- 記入、保存、送信をAdobe Readerで実現
- オンライン・オフライン双方の運用に対応
- PDFを情報の「コンテナ」として活用

電子署名

ファイル添付

DEMO#1：2次元バーコードソリューション (紙と電子プロセスの融合)

The screenshot shows a Microsoft Internet Explorer browser displaying the LiveCycle Bank website. The main content is a form for '住所変更届・公共料金口座振替依頼書' (Address Change and Public Utility Account Debit Request Form). The form includes fields for name (面土美 太郎), date of birth (44.02.03), and address (大崎ゲートシティ, 東京都品川区大崎1-11-2). A large 2D barcode is generated on the right side of the form, which dynamically reflects the entered information. A yellow callout bubble with a red border points to the barcode, containing the text: 'フォームへの記入情報が、ダイナミックに2次元バーコードに反映'.



シナリオ：顧客情報管理の効率化

- **対象業務**

- 既存顧客の個人情報メンテナンス

- **顧客の課題**

- 本人確認のため押印された「紙」が必要
- エンドユーザへのサービスの向上
- 新規契約等ではいため、コストを圧縮したい
- 業務効率（郵送時間、再入力時間、エラー訂正 等）

- **アドビの提案**

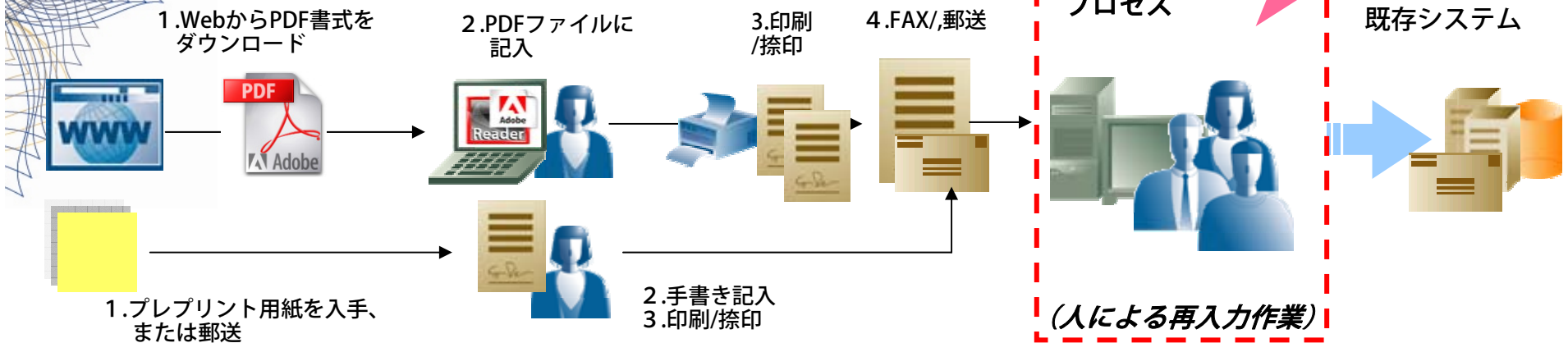
- 2次元バーコード＋PDFフォームによる情報再入力、補正作業の大幅な削減

- **適用製品**

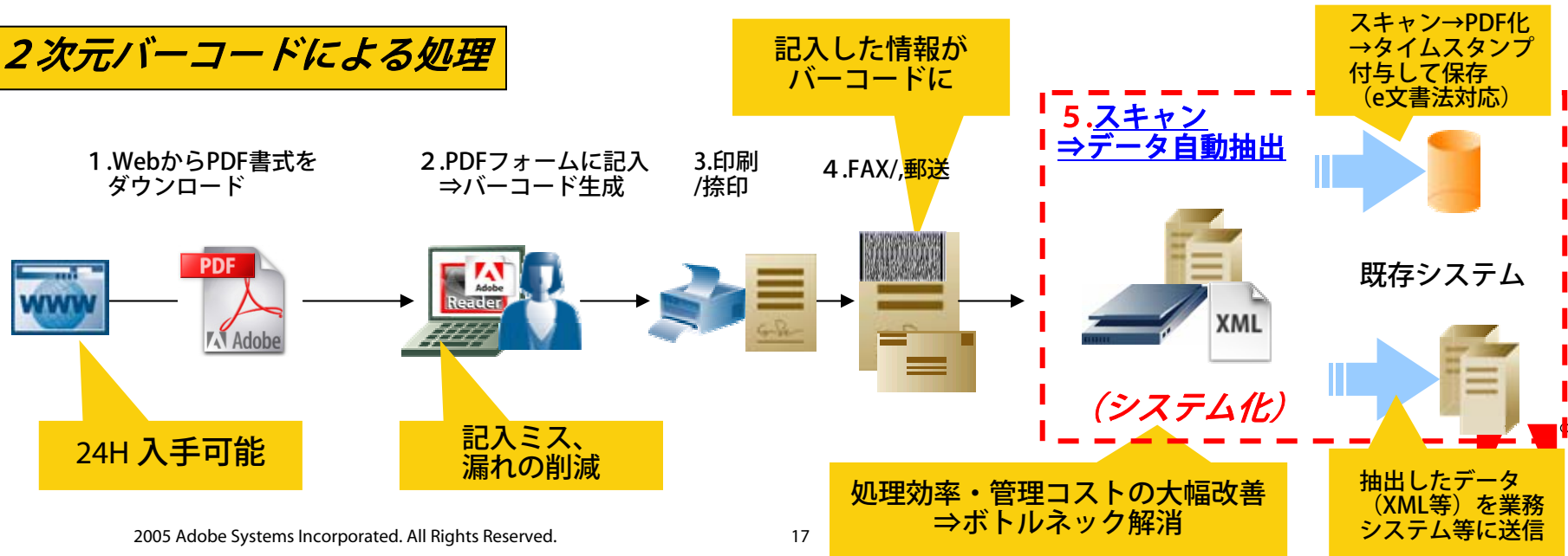
- LiveCycle Designer
- LiveCycle Barcoded Forms/Decoder

2次元バーコード利用による 申込業務の効率化

従来の「紙」の処理プロセス



2次元バーコードによる処理





PDFフォーム＋2次元バーコード利用のメリット

■ 手書フォームとの比較

- PDFフォームのエラーチェック機能により、記入漏れや計算間違いが減少
- 記入されたデータは、バーコードから読み取るため、人手による再入力の手間、コスト、エラーを削減

■ OCRとの比較

- 読み取り精度が大幅に向上（論理的には100%正確）
- フォームの改訂ごとに発生する読み取り位置の再設定が必要なくなる

■ フルデジタルとの比較

- ネットワークセキュリティ、電子認証基盤、高価なサーバシステム等が不要
- 添付書類が紙、または窓口での本人確認等が必要な場合に、有効
- FAX等の既設インフラを活用可能

■ 1次元バーコード利用との比較

- 従来のバーコードより格納できる情報量が多いため、申請内容全体をバーコードに生成可能

セキュアな情報コンテナとしてのPDF

- ドキュメントプロセスの中での**一貫した情報の整合性**、**時と共に変化するセキュリティレベルへの対応**を実現

タイムスタンプ：
情報の作成時を証明

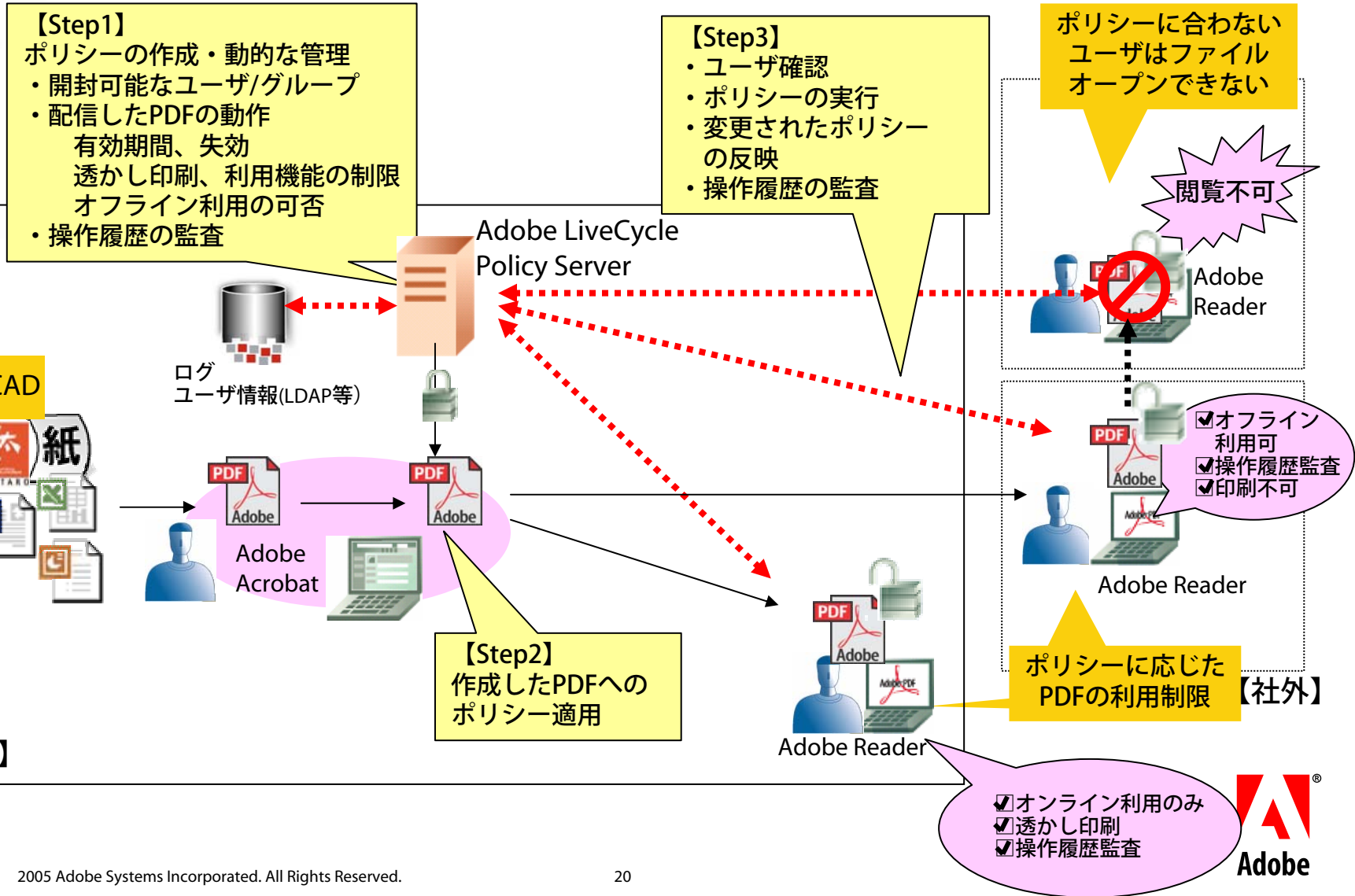
暗号化：
情報の秘匿性を確保



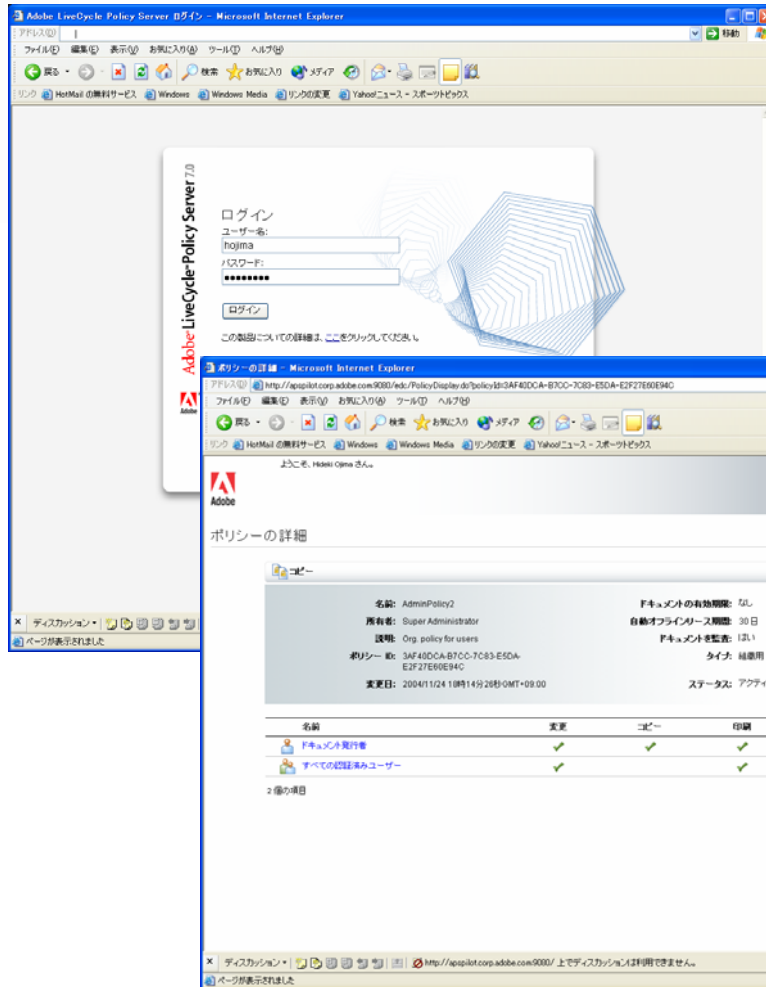
セキュリティポリシー：
動的なアクセスコントロールを実現

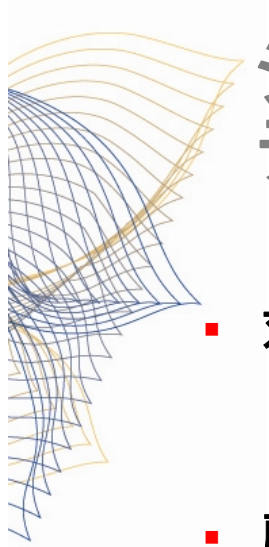
電子署名：
情報の完全性を確保

情報の動的なアクセスコントロールを実現 Adobe® LiveCycle Policy Server



DEMO#2：セキュア・コラボレーション (情報の不正流出を防ぐワークフロー)



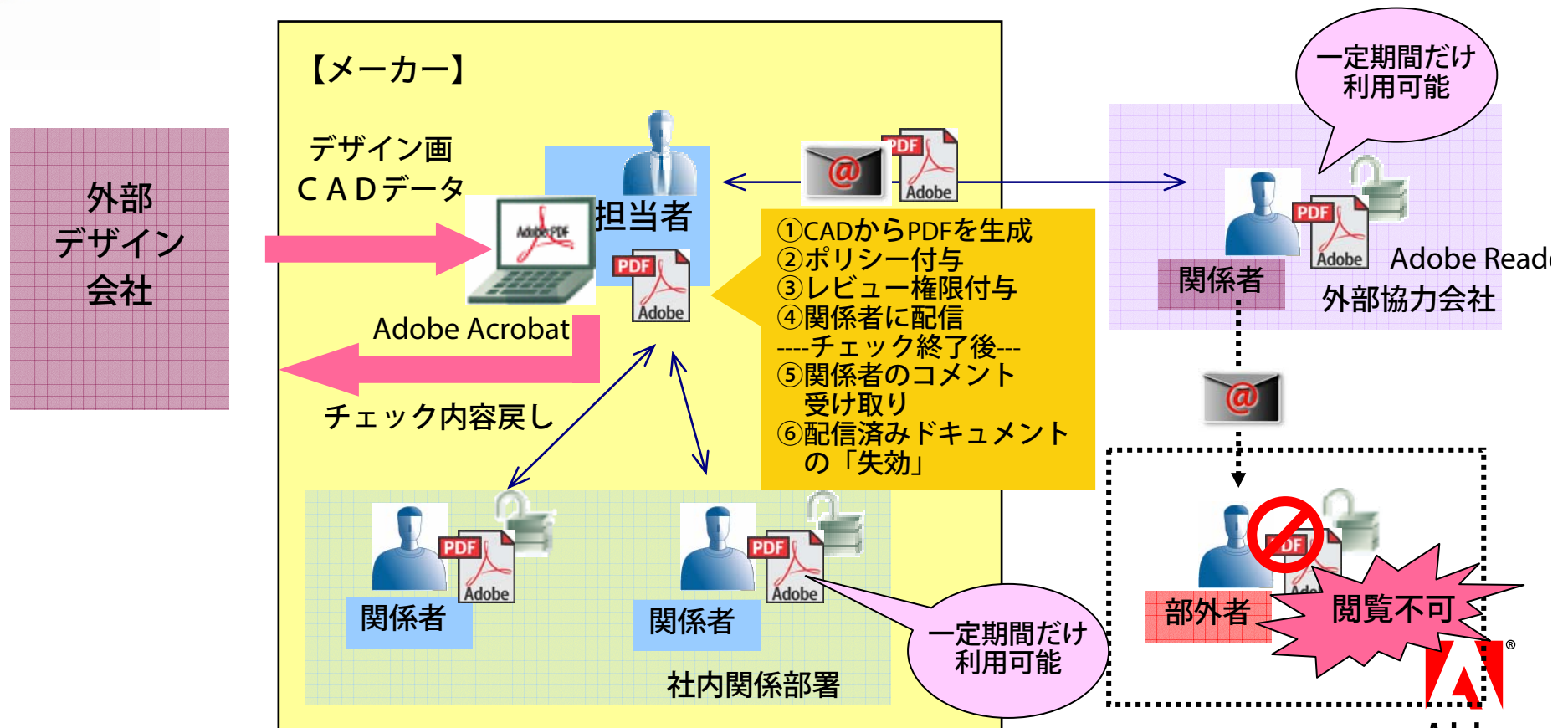


シナリオ：製造業における、社外取引先との デザインチェックプロセス

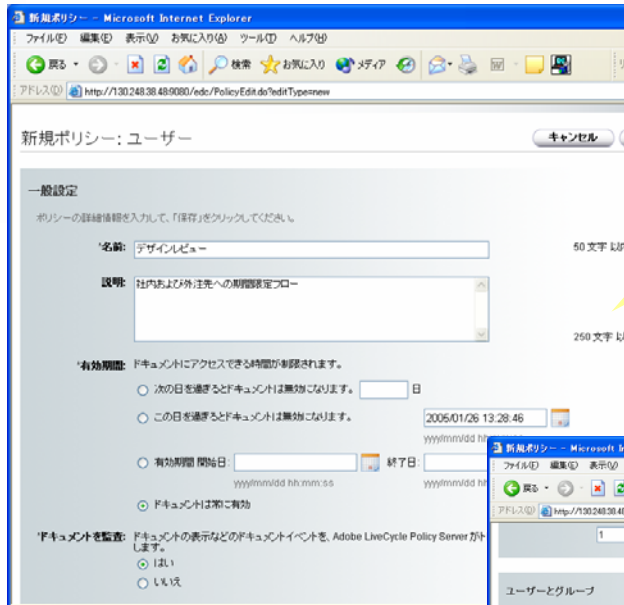
- **対象業務**
 - 製造業等における、外部関係会社とのコラボレーション（非定型）
プロセス
- **顧客の課題**
 - 社外に渡した機密情報の第三者への流出を防ぎたい
 - 1:Nのコラボレーションの効率化
- **アドビの提案**
 - PDFへのセキュリティポリシー、利用権限付与により実現
 - セキュリティポリシー ⇒ 第三者への漏えい防止、有効期間の動的な設定
 - 利用権限付与 ⇒ Adobe Readerでコメント付与
- **適用製品**
 - Acrobat
 - LiveCycle Policy Server

情報の不正流出を防ぐ、セキュア コラボレーション

- システムが異なる複数の組織を横断するプロセスを効率化
- 時間や利用者毎にセキュリティを変更

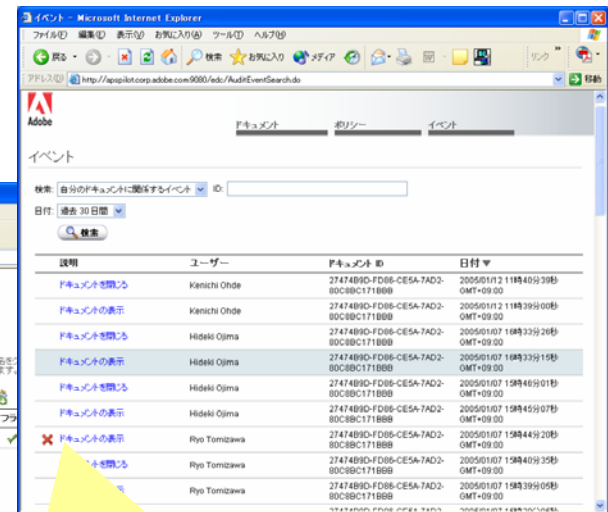
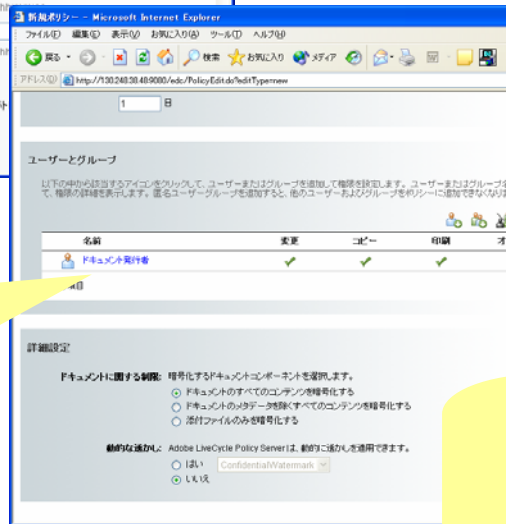


LiveCycle Policy Server設定画面



- 【ポリシーの概要】
- 名称
 - 有効期間
 - ログのトレース可否

- 【ポリシーの対象 他】
- 対象となるユーザー、グループ設定
 - セキュリティレベル
 - 透かしの設定 等



- 【利用履歴・ログの監査】
- ユーザー名、ドキュメント名などの条件で利用履歴が検索可能
 - 管理者用の各種機能

DEMO#3：フォーム+セキュリティポリシー

ライブサイクル火災 | 損害調査システム

LiveCycle Financial Group

LOGOUT

処理状況

報告・通知書

証明書

■ 今週の処理予定案件

B-0418872: 物損	未処理
J-0407723: 人身	処理中
J-0407722: 人身	処理中
B-0418871: 物損	処理中
B-0418870: 物損	処理済

Copyright 2004 LiveCycle Insurance Co., Ltd.

Adobe Reader - [事故報告書.pdf]

Adobe Reader - [事故報告書.pdf]

ネット系必 自動車事故受付シート

●受付日

証券番号 契約者

事故日 運転者

事故場所 届出警察 登録番号

保険金額 車対人 対物 対車 対物 対車 対物

費用掛保特約 万円 身の掛り 万円

契約車両 会社名 車種 相手車 会社名
自賠責 証明書 任意保険 証明書

●事故状況 ●状況図

項目	保険種別	保険金額	保険条件	入庫日
対人自賠責	①	万円	万円	万円
対物	①	万円	万円	万円
対物	②	万円	万円	万円
対物	①	万円	万円	万円
対物	②	万円	万円	万円
人身傷害	①	万円	万円	万円
人身傷害	②	万円	万円	万円

Adobe Reader - [事故査定報告書1.pdf]

Adobe Reader - [事故査定報告書1.pdf]

関係者外秘

ライブサイクル火災 御中

事故年 月 日

事故査定報告書

支払い上限金額 万円

修理金額 万円

修理内容

査定事業者

事業者住所

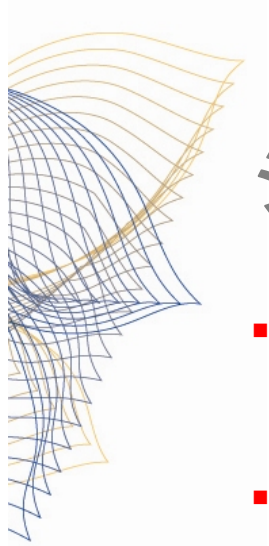
担当者

2004/11/23 1:15:55

事故報告書.pdf

名前 更新日時 文書内の場所 サイズ

事故報告書.pdf 2004/11/23 1:15:55 1 ページ 21 KB

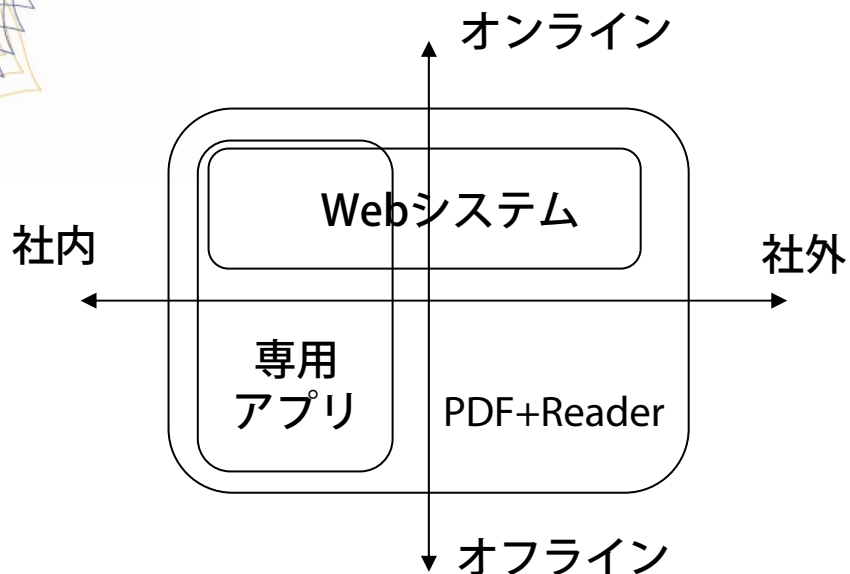


シナリオ：事故調査～支払いプロセスの改善

- **対象業務**
 - 損害保険による請求～事故調査～支払いプロセスの効率化
- **顧客の課題**
 - 保険内容、事故状況により、都度変わるプロセスへの対応
 - コンプライアンスへの対応（フォームの改変防止、個人情報保護）
⇒プロセス効率化とセキュリティの両立を図りたい
- **アドビの提案**
 - フォーム機能とアクセスコントロールによる、セキュア・ラウンドトリップ・ワークフロー
- **適用製品**
 - Acrobat
 - LiveCycle Designer
 - LiveCycle Policy Server
 - LiveCycle Reader Extensions
 - LiveCycle Forms

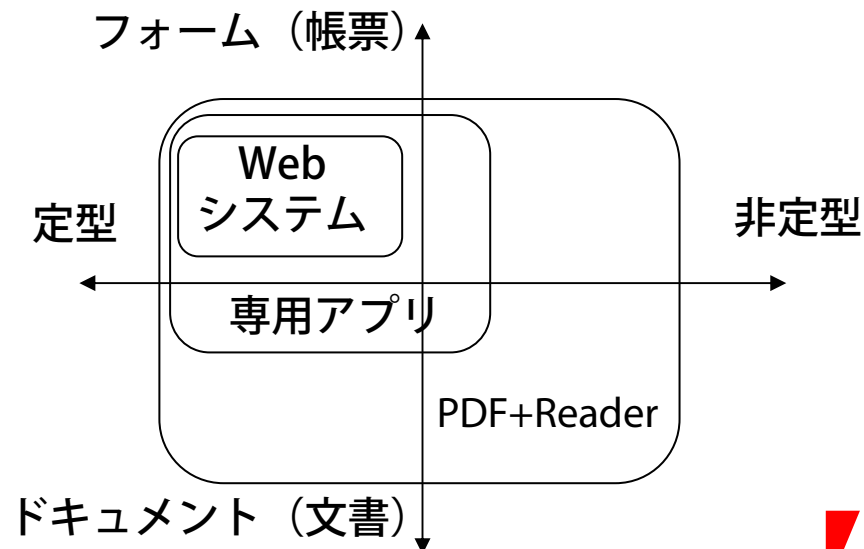
アドビPDFソリューションのポジショニング

インフラ：あらゆる利用環境に展開可能な**セキュアかつユビキタス**なプラットフォーム



Only Oneかつ
デファクトスタンダードな
プラットフォーム

プロセス：あらゆる業務に適用可能な
柔軟性の高いプラットフォーム

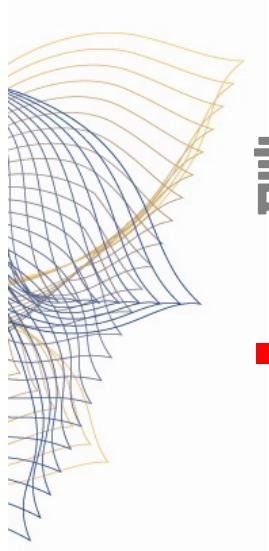




まとめ：アドビのPDF戦略

- Adobe Readerを業務システムの課題を解決する **Rich Client**として位置づけ
- PDFをインテリジェントに扱うための **「機能拡張」**と **「セキュリティポリシー」**
- J2EEアプリケーションとドキュメントプロセスを統合する **Adobe LiveCycle** プロダクトの提供
- **2次元バーコード**で、「紙」プロセスをも電子的に統合可能

既存の業務システムを更に拡張し、
「情報共有」と「セキュリティ」を両立します



詳細情報のご案内

- Adobe LiveCycle製品情報

<http://www.adobe.co.jp/server/>

- ユーザ事例

<http://www.adobe.co.jp/enterprise/customers.html>

- 導入に関するお問い合わせ

<http://www.adobe.co.jp/enterprise/contactus.html>



2005 Adobe Systems Incorporated. All Rights Reserved.

